

第2回 志免町地域公共交通会議

日 時:令和5年2月20日(月)14:00~15:10

場 所:志免町役場4階 第1・2委員会室

出席者:【委員】丸山会長、立花副会長、赤瀬委員、斉藤委員、山田委員、是久様(久世委員代理)、雑賀委員、砥上委員、生野委員、戸田委員、二宮様(田辺委員代理)、西山委員
【事務局】篠原経営企画課長、米澤経営企画課長補佐、安恒政策推進係長、清原政策推進係員、吉村政策推進係員

1. 開会の言葉

事務局より欠席者・代理出席者の報告、配布資料の確認
《欠席者》富原委員、鞭馬委員

2. 議題

(1) 公共交通の現状と今後の方針

○事務局

資料 1・資料 2・資料 3 説明

○会長

説明について、何か意見・質問はあるか。特に、利害関係の観点も踏まえて、交通事業者から何か御意見があれば。

○委員

現状バス事業として、乗務員不足や利用者の減による収支が賸えないところが大きな問題になっており、事業の継続が難しくなっている。大型バス以外でコストを落として、よりきめ細やかに地域のお客様を運ぶ、という目的でデマンド型交通がある。基幹交通として西鉄バスが走り、枝線交通としてオンデマンドバスが走るということで、うまく連携して、地域住民の方がより利用しやすい、分かりやすいものになれば。

○委員

運転手が、年齢的に年金受給者が多く、若い人材が不足している。近隣市町村で導入しているところもあるが、年配の方がアプリを使って利用につながるかが心配である。

○会長

町内会連合会が先進地に視察していると報告があった。実際に試乗した感想をお聞かせ願いたい。

○委員

のるーとを視察してきた。8人乗りの車両が狭い道路も進んでける。バス停は、看板が立ってい

るわけではなく、道路標示になっている。バス停から予約をすると、何時頃バス停に到着予定と回答があり、ほとんど誤差なく乗車でき、スムーズに目的地まで行けた。非常に便利に感じた。今の福祉巡回バスでは、夕方前後に役場に行っても帰りの便がないことが多々ある。西鉄バスを乗り継いで帰るか、タクシーで帰るしかない状況になってしまう。南小学校区は、町役場に来るのに非常に不便な状況である。アンケートの結果で、南小学校校区でデマンド型交通が導入された際に、利用したいとしているのは33%、分からないとしているのは43%となっているが、住民に周知徹底するとかなり利用希望者の増加が望めるのではと思う。スマホでの利用については教室・講座を開催して利用促進を行うべきである。早急に導入してもらえればありがたい。

○副会長

利用者の立場からすると非常に便利が良く感じた。今、志免町は福祉巡回バスが走っているが大きな道しか通れない。のるーとは路地まで入ることができる。心配なのはスマートフォンでの利用についてである。スマートフォンは持っているが慣れていない高齢者が多いため、準備や説明が必要になると思う。狭い志免町だが、バス停が遠いとか非常に坂道が多いとか、買物難民も多数あり、利用説明や活用講座をしっかりとできれば利用が伸びていくのではと思う。

○会長

行政の立場からも意見頂ければ。

○委員

アンケート調査や実地視察など、慎重に準備ができていると思う。次の議題の際に質問させてもらえれば。

○会長

他の機関との関りについてはどうなるか。

○事務局

他の機関とのかかわりについては、国の補助金等を使って整備を進めることを検討・申請を行っている。また、福岡県では、公共交通関係の運行システムの利用料や、運行のテストの補助等も行っているため、次年度以降活用できれば。また、警察署や、県道の管理者である県土整備事務所とは、バス停設置場所など、交通関係の指摘もいただきながら進めていきたい。

○会長

県道68号線にもバス停があるが、新たに設ける際の注意事項など、県道整備事務所のほうから何かご意見があればお願いしたい。

○委員

道路管理をしている管理係と協議していただいて、どのあたりにどういったものを置きたいなど、占用協議をお願いしたい。場合によっては設置することができないこともあるため、設置を

検討される場合は必ず協議をしてもらえれば。

○委員

前回の議論も含めて、利便性の高い公共交通システム導入は、まちづくり上良いことだと思う。地域のニーズも一定程度あるということで、進めていくことに反論はない。しかし、その前提で心配するのは、公共サービスであっても、利用されない方々への説明はどのように考えているか。システムを導入してどういった収支構造か、財政負担がどの程度予測されるのか、情報提供をしていく必要があるのではないか。サービスの持続可能性を担保する上でも、情報の発信は可能か。

○事務局

まずこの会議体の中で、方向性が整い次第、町議会に最初の収支構造等の説明を行い、予算を通すこととなる。それに伴って町民にも、このようなものを導入するものの周知をしていくという流れになる。最初の入り口のところでは、町民の代表である議会がこの事業について、収支等の判断が下される予定である。

○会長

ほかに意見は。

○副会長

町内会長会議の中でも、交通難民や買物難民など、様々な面で要望が挙がっている。オンデマンドバス導入の初期は、今の福祉バスの1本だけではなく、一時期は同時に運行されて、徐々に利用を移していく形は、非常にメリット大きいので、早急に実現してほしい。広報・周知活動や、スマートフォンアプリの勉強会など、丁寧に取り組むことで、スムーズに導入できるのではないか。

○会長

それでは、オンデマンドバスの導入することについて、会議として承認することに異議はないか。異議なしということで、事業を進めていくこととする。

(2) オンデマンドバス導入までのスケジュール

○事務局

資料4 説明

○会長

説明について質問等は。

○委員

オンデマンドバス導入の方向性が決まったが、本当に難しいのはこれからの乗降拠点協議の部

分である。どこに乗降場所を設けるか、運行の区域をどうするかなどを決める必要があるが、どのような構成員で進めていくのか。

○事務局

乗降拠点については、福祉巡回バスで活用している現在のバス停を基礎とし、それに追加する形で考えている。最終的には町内会とも協議しながら、どの部分を増やすのかなど、打合せた上で素案を作成して、本会議に提示させていただこうと考えている。

○委員

乗降場所を増やせば増やすほど、住民にとっては利便性が増すが、一方でタクシー事業と利害関係が大きくなってくる可能性がある。あまりオンデマンドバスが使い勝手が良いと、タクシー利用者の減少につながる可能性があるので、注意されたい。

○事務局

運行時間について、タクシー事業者、西鉄バスとも協議を行い、棲み分けできるような時間帯で営業を考えている。

○会長

他に御質問がないようなので、以上で本日の審議を終了する。今後様々な意見を頂戴しながら進めていく。

3. その他

○事務局

次回の開催は8月下旬頃の予定。運行計画等、多くの内容を決めることとなる。第3回、第4回と立て続けに会議を開く可能性があるが、お願いしたい。

4. 閉会の言葉